

1. SDGs時代に対応する森林空間を活用した教育イノベーション

本検討委員会のミッション

森林空間を活用した自然保育や学校教育、企業研修等、様々な「教育」に係る現状、ニーズ、課題といった基礎的調査を実施し、具体的政策パッケージとして整理を行い、今後の森林環境教育の推進に向けた新たな方向性の検討を実施する。具体的には、森林空間を活用した教育分野において、現時点で主に想定される以下のア～ウの課題について、現状把握・状況分析等を行い、具体的な課題解決方策について検討を行う。

ア 幼児教育や学校教育、企業研修等の場における森林空間を活用した教育プログラムの提案及び仕組みの構築

森林空間を教育や研修のフィールドとして活用する幼稚園や保育所、学校の関係者、企業の人事・研修担当者、NPO団体等からのアンケートやヒアリング調査、研究論文等の文献調査を通じて、森林空間を教育や研修の場として活用した場合の優位性や様々な効果、課題等を整理し、幼児教育や学校教育、企業研修等の場における森林空間を活用した教育プログラムの提案やそれが活用されるための仕組みについて検討を行う。

イ 推進体制整備や人材育成

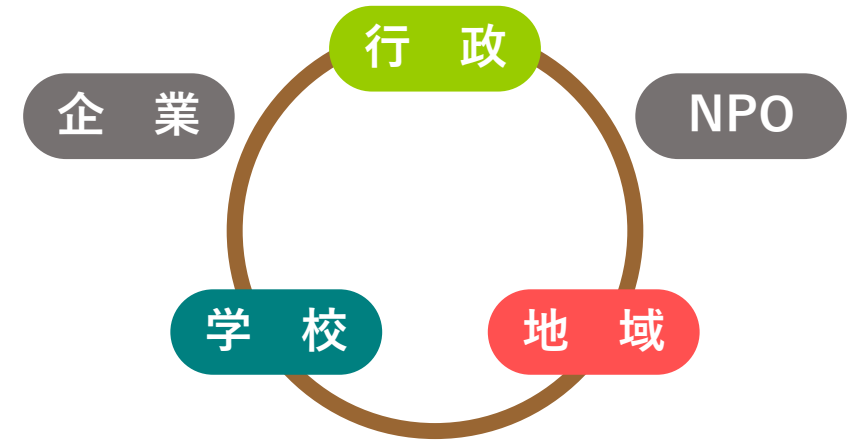
上記アのアンケートやヒアリング調査等を通じて、現状把握や優良事例の収集・分析等を行い、各地域が今後、森林空間を活用した教育に取り組むための推進体制整備や人材育成の効果的な方策等について検討を行う。

ウ 需要側と供給側での効果的な情報共有、人材派遣等のマッチング手法の検討

森林空間を活用した教育を取り入れようとしている需要側と、その要望に応えるフィールドやプログラム、人材を有する供給側が繋がるための効果的なマッチングの仕組みの整備や関係者が保有する様々な情報が効果的に共有されるための仕組みが構築されるよう、類似事例の収集を行い、効果的な情報共有の仕方、マッチング手法について検討を行う。

SDGs時代に対応する森林空間を活用した教育イノベーションの目指す姿（イメージ）

- 森林空間を活用した体系的な教育プログラムがあり、行政・学校・地域が連携して、これを適切に子どもたちへ提供し続けている。その際、企業やNPOがノウハウ、人材面等で支援している。
- この教育プログラムは、学校の内外及び子どもの各発達段階に応じた個別の取組が有機的につながっているものである。
- 子どもたちがこの教育プログラムを受け続けることによって、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現する力の獲得が促進される。
- 大人たちは、職場や地域等における様々な課題解決に向けて、上記の力を発揮する。その際、森林空間を活用した職場での研修や地域でのワークショップ等がこれに貢献している。



森林環境教育の現状と課題（概要） ※詳細は今後、調査等を通じて整理。

	幼児期	学童期 (小学校)	青年期 (中学校・高等学校)	成人期	備考
学校における 現状の取組	—	①身近な自然での体験学習 ②社会、理科等各教科 ③総合的な学習の時間 (林間学校)	①身近な自然での体験学習 ②社会・理科等各教科 ③総合的な学習の時間 課題研究	—	①体験学習→ ②調べ学習→ ③問題解決型 学習の順に記 載
地域における 現状の取組	①出張かみしばい等 ①自然保育	①学童保育 ①サマーキャンプ	①自然観察会 ①森林ボランティア	①自然観察会・自然散策 ①森林ボランティア	

【課題】 行政・学校・地域の連携がなく、学校内外及び子どもの各発達段階に応じた個別の取組が有機的につながっていないのではないか。

2. メディア・企業の協創による「森林×SDGsプログラム」の発信

①森林の新たな楽しみ方を提案する森林モニターツアーの実施

今時の価値観・ライフスタイル（ワークスタイルを含む。）に合った森林の新たな楽しみ方や過ごし方を実践するモニターツアーを企業と連携して開催する。ツアー内容については、メディア等を通じて、一般の生活者に対する発信を行う。

②「2050年の未来予想図」を作成するワークショップの実施

中学校又は高校において、生徒自らが参画して未来予想図を作成するワークショップを実施する。未来予想図は、SDGsの趣旨を参考としつつ、地域、日本、世界、地球が2050年にどのようなになっているか、その中で、将来の自分たちと森や都市の関係をどうしていきたいか、地域はどうなってほしいか等を描くものとする。

3. 調査報告書の作成及び報告会の開催

1.及び2.の実施内容をとりまとめ、調査報告書とその概要版を作成する。また、国民への普及・啓発、関係者の機運の醸成等を目的として、報告会はWEB配信を用いて東京都内で行う。